

当院で薬剤関連顎骨壊死及び下顎骨骨髓炎と診断された患者様へ

研究課題名：セメント質骨性異形成症患者における薬剤関連顎骨壊死の画像所見の特徴

研究組織：九州歯科大学 顎顔面外科学分野、歯科放射線学分野

研究代表者：九州歯科大学 顎顔面外科学分野 土生 学

研究の意義・目的：

薬剤関連顎骨壊死は重度の骨髓炎を発症する病態です。一方、セメント質骨性異形成症は易感染性で、炎症が広がりやすい病態です。これらの両方を併発した場合には、画像所見は複雑なものとなり、正確な診断が困難になる傾向にあります。この診断の正確性は臨床上、難治性及び増悪傾向の予測因子となるため重要です。しかし現在のところ、併発症例の CT 画像や MRI 画像所見は学術的にまとめられていません。この度、併発症例の画像的特徴を明らかにすることで、画像診断及び予後予測の向上につながります。

当該研究の方法：

2009 年から 2021 年の間に当院を受診され、薬剤関連顎骨壊死及び下顎骨骨髓炎と診断された方を対象に、CT 画像と MRI 画像を詳細に再検討します。セメント質骨性異形成症を併発しているグループとしていないグループに分けて画像所見を比較します。これにより、薬剤関連顎骨壊死とセメント質骨性異形成症を併発している患者の CT 画像及び MRI 画像の特徴を明らかにします。

得られた結果は、学術学会や専門学術誌において発表します。その際、個人情報完全に保護した形とし、個人が特定されることは決してありません。診療情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。この研究についてわからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ窓口：

研究責任者 土生 学

九州歯科大学 顎顔面外科学分野

〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 Tel 093-285-3067